

日時 2017年11月24日(金) 19:00~

会場 大竹財団会議室  
東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円/学生、大竹財団会員=無料  
定員30名【要予約】

主催 一般財団法人大竹財団 03-3272-3900  
<http://ohdake-foundation.org>

誰もひとりでは生きられない。

# ホタル人

となる

*never let me go.*

親と暮らせない子どもたちと、隣り合う保育士たち。そして、子どもとふたたび暮らすことを願う親。ある児童養護施設の日常を追う8年間のドキュメンタリー。

刀川和也監督作品 企画：稲塚由美子 撮影：刀川和也・小野さやか・大澤一生 編集：辻井 凛 構成：大澤一生  
プロデューサー：野中章弘・大澤一生 製作・配給：アジアプレス・インターナショナル AP JAPAN 日本 / 2011 / SD / カラー / 日本語 / 85分 / ドキュメンタリー  
山形国際ドキュメンタリー映画祭 ニュー・ドックス・ジャパン部門招待作品

Web予約  
PC・モバイル共通



<http://bit.ly/2gBat7t>

[www.tonaru-hito.com](http://www.tonaru-hito.com)

一緒にごはんを食べ、お手伝いをして、  
遊んで、絵本を読んでもらう。  
時には怒って凹んで泣いたって、  
同じ布団で寝れば同じ朝がくる。

壊れた絆を取り戻そうと懸命に生きる人々の  
平凡だけど大切な日々の暮らし。



地方のとある児童養護施設。ここでは様々な事情で親と一緒に暮らせない子どもたちが「親代わり」の保育士と生活を共にしている。マリコさんが担当しているのは、生意気ざかりのムツミと甘えん坊のマリナ。本来、親から無条件に与えられるはずの愛情だが、2人にとっては競って獲得しなければならない大事な栄養素。マリコさんを取り合ってケンカすることもしばしばだ。そんなある日、離れて暮らしていたムツミの母親が、ふたたび子どもと一緒に暮らしたいという思いを抱えて施設にやってくる。壊れた絆を取り戻そうと懸命に生きる人々の、平凡だけど大切な日々の暮らしは今日も続く。



## ただ、寄り添い続けるカメラが紡ぎ出した映像スケッチブック

新聞やテレビで、「児童虐待」のニュースを目にすることがまれでなくなった昨今。しかし、そのニュースはセンセーショナルに報じられるだけで、子どもが生きる現場に寄り添い、なにが大切なかを深く洞察した報道は少ない。本作は、「子どもたちと暮らす」ことを実践する児童養護施設、「光の子どもの家」の生活に8年にわたって密着し、その日常を淡々と丁寧に描いたドキュメンタリー。監督はフリージャーナリスト集団「アジアプレス・インターナショナル」に所属し、フィリピンやインドネシア等アジアの児童問題を取材してきた刀川和也。「私の全存在を受け止めて!」と不安の中で揺れ動き続ける子どもたち。自らの信念とその重さに格闘しながらも、子どもに寄り添い続けようとする保育士たち。離れて暮らす子どもとふたたび生活できるようになることを願い人生を修復しようともがく実の親など、生命力に溢れる人々の姿が瑞々しく描かれ、どこにでもありそうな日常なのに、観る者を笑いと涙、人と人とのぶつかり合いの温もりで包み込む。



### 「児童養護施設」とは?

児童福祉施設のひとつで全国に約580施設あり、そこで暮らす児童は約3万人(2011年10月現在)。災害や事故、親の離婚や病気、また不適切な養育を受けている等、家族による養育が困難な2歳から約18歳の子どもたちが生活している。かつては「孤児院」と呼ばれていたが、児童福祉法の制定、改正で「児童養護施設」と変更された。施設形態は大舎制(1舎につき20人以上の児童)が全体の8割と一般的。本作の舞台となる施設は小舎制(1舎につき12人までの児童)。



託かる人  
never let me go

刀川和也監督作品

企画: 稲塚由美子 撮影: 刀川和也・小野さやか・大澤一生 編集: 辻井澤 構成: 大澤一生  
プロデューサー: 野中章弘・大澤一生 製作・配給: アジアプレス・インターナショナル  
配給協力: ノンデライコ 宣伝協力: contrail 宣伝: プレイタイム  
日本 / 2011 / SD / カラー / 日本語 / 85分 / ドキュメンタリー [www.tonaru-hito.com](http://www.tonaru-hito.com)

JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)  
京橋駅7出口から徒歩3分/日本橋駅B3出口から4分